

算数のセンス

算数のセンスとは何か？その疑問の答えは、一つ「概算能力」です。
そしてこれは磨くことができます。

例① $313 \times 49 = 15,337$

筆算しなくても1の位は、 3×9 で2「7」と瞬間的に理解できます。
また、近似値で計算すると、 $300 \times 50 = 15,000$ なので、
これに近い答えになるとやはり、瞬間的にわかります。

算数のセンスがない子の陥りがちなミスは、どう考えても100%違う答えを書くところにあります。例えば、会社で経理をしていれば、「うちの会社の規模で売り上げ1,000万円はおかしい？」「実際は100万円だった」とか、桁の違いに気が付くはずですが、これがセンスです。

食塩水 100g 濃度 15% 食塩の量は？ 100gを超えるわけがない
分速 100m で1時間歩くと？ なぜ 100m 公式のあてはめを間違えている
見た目が鋭角なのに答えは「130度!!」ありえない!

これを応用すると、いわゆる就職試験でも使われるような「フェルミ推定(推計)」になります。

お子さんと一緒に考えてみてください。

例題！

日本にある電柱の数は何本でしょう？

電柱の数は何に相当するのか？

そこから類推して、答えを**考える!!**

正解することより**推測することが大切**です!



考え方としては、

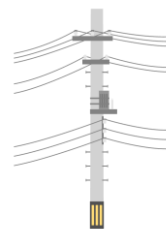
就職試験でも使われる「フェルミ推定」

日本にある電柱の数は何本でしょう？

電柱の数=電力を移動させる方向を変える分必要

→「=世帯数?」と仮定する。

日本の世帯数は核家族化が進み、一世帯 4 名と仮定



1 億 3000 万 ÷ 4 = 約 3200 万

ちなみに 2016 年で 3578 万本だそうです

(国土交通省ホームページより)

割と近似値が出ます。

これがいわゆる「勘」の良い子です。「勘」とは運に左右されるものではなく、その人の経験に裏打ちされた確かな感覚です。上記の問題は、小学生でも割と「勘」の良い子は答えられます。試してみてください。

※フェルミ推定は「シカゴのピアノ調律師の数」が有名です。